



## ○ 行事予定

- 10月9日 列会・天体写真コンテスト（博物館1階ロビーに13:30集合）  
11月2日～3日 秋の観測会（県民天文台にて）  
11月7日 運事会（毎月第1月曜 天文台にて19:30～）  
11月12日 運営委員会（毎月第2土曜 天文台にて一般公開終了後）

\*10月から11月にかけては流星群の多い季節です。特に、10月16日～27日のオリオン群(HR30)や、11月のしし群(HR50)等は観測対象としたい群です。

## 星を見よう会に参加して

片野坂重浩

去る、8月5日～7日 信州の高峯高原で星を見よう会'83が開かれました。県民天文台の華星隊からはおなじみのJ氏と私の2人が参加したのであった。せっかく信州まで行くので「星の家」にも2泊することにした。J氏と違い、長い夏休み真最中の私は途中いろいろ寄ることにして、3日に星の家で会うこととした。

福岡・京都・松本などで一泊した後の8月3日、大糸線で星過ぎに南小谷駅に着き星の家に到着した。チャウチャウ犬の“オリオン丸”と遊んだり（初めは、ほとんど無視された）、星の家オリジナルドーム製作を見たりした。ドーム1つだけだと、約1週間で出来上がるとのことであった。今までに10コぐらい売れたそうです。熊本にも1つどうですかとのこと。。。J氏、8時頃到着。夕食を済ませ、待望の50cmをのぞくこととなる。泊り客と一緒に、M13, M22, M27, M57など見せてもらう。さすが50cmともなると集光力が違い、M13など30cmとはやはり比べものにならなかった。J氏によると ピントなどアマイとのこと。部屋に戻ると、清氏とJ氏が日食講義をしていた。中に加わり、色々の写真を見せてもらう。雑誌に載った日食のプロミネンスの写真など印刷したものとは、段違いに色が出ていた。写真にかけては、さすがにトップ的存在の人だと思い、天体写真のすばらしさを知った。星の家のあちこちの壁には、50cmやライトショミットなどによる天体写真のパネルが飾ってありそれぞれすばらしいものばかりだった。特に日食のコロナは、内部コロナと外部コロナがはっきり出ていた。これは、おおい焼きなどするため試し焼きを30回ぐらい行なっていて、発色の違いなど見るには、貴重なデータになっていると感じた。

さて、今回の旅行のメインである星を見よう会であるが、会場となった場所は標高2000mと高く、そこまでの道のまわりの植物の植生の変化からもそれが感じられた。着いてみるとほとんど的人が集まっていた、間もなく開会式が行なわれた。まず自己紹介がありトップはJ氏、年令のことなどいつもの質問がとびかい会場がぐっとやわらいだものとなった。夕食を終え、次はI.R.A.S.・アラキ・オルコック彗星の発見者、荒賀源一氏の発見談。なんと発見当日は、ビール2㍑と酒を少々飲んだ後とか。このことでは、KCAOの誰かさんも負けませんね。新彗星発見も間近では、荒賀さんの楽しい話の後は、観望および観測が始まり、30cmドブソニアン（通称：ドブソウジ）やイメージインテンシファイサーなどをのぞく。このIITとは、コスマス1402の時の某

国営放送のカメラに似たものであり、天体の光を増幅したものをアイピースからのぞくというものである。詳しいことは、J氏が資料を持っているのでそちらまで。コップ彗星など見て大部屋に戻ると、宴会が始まっていたので加えてもらい、夜遅くまで話に花が咲いた。

2日目は、起床してラジオ体操。もうほとんど忘れていたが、なつかしいものだった。この日は研究発表のあと、レクリエーションとして山登り。自称ヤングも混じって楽しいものとなる。もちろんJ氏は欠席。夜になると、スガノ・サイグサ・フジカワ彗星の発見者の三枝義一さんや、“アメリカ天文記行・ふたたびキットピーク”の出口修至先生の講演があり、その後、前夜は光軸修正不足のため見られなかった45cmドブソニアンも登場しての観測が始まった。高橋の確か12cmのフローライトなども登場して、望遠鏡のアラベラも始まった。高橋のモーター内蔵の赤道儀など他社でも、これから出てくると思う。3日目は、次回開催地の相談が行なわれた。来年は、九州へとの声が多く、もしかすると来年は熊本で行なわれるかもしれません。彗星を観測したことのない方でも結構ですので、よろしければどうぞ。天文についての考え方方が変わるかもしれませんよ。今回の星を見よう会への参加で、一番良かったと思ったのは、天文という同じ趣味をもった友人がいろいろ出来たことです。あなたも熊本の中でもいいですから、いろんな会に参加していろんな人と知り合いになったらいかがですか。

### アストロプラザ IN 佐賀

PIYO PIYO

8月5日、PM1:25 熊大天文研究会のうち5名が熊本駅に集合。この時K氏は前後左右に巨大な荷物をかついでいました。何がはいっているのかと思えば、なんとテントと小型のガスボンベが入っていることで、野宿を覚悟していた我々は、K氏の心づかいと力強さに感謝しました。湯宿で乗りかえ、佐賀駅でY氏が合流。5:30に大町に着く。夕食後、一路、タクシーで会場の鬼の鼻山へ。会場に着くと、もう夕方近くだったが、山の上はさすがに涼しく、下界の暑さを忘れるくらいだ。この日は前夜祭とかですぐにおひらきに。夜になって、広場に望遠鏡が集まりだしました。空はいまいちでしたが、なんと31cmほどのドブソニアンが2台もありました。もっとも熊大天文研究会のメンバーは、他の大学生と、学生の本分たる酒盛りに徹しておりました。そろそろ寝らうかと、テントでシェラフにもぐりこむと、何とヤブ蚊の大襲撃。そのうちシェラフの中は暑いのでシェラフの外に出ていたもんだから、やたらめったらヤブ蚊に刺されました。おかげで限れ

ず、午前5時ごろ、なんとかシェラフにもぐりこみ、眠りました。

8月6日 8時ごろ、太陽の光で目がさめる。山の上なのに、昼間はかなり暑い。スイカ割りでもやるかと期待していたのにだめでした。昨夜の睡眠不足をおぎなうため、休けい所で寝っころがる。（休けい所といっても壁板にベンチがあるだけです。）そのうち午後4時30分から自慢大会（発表会？）があるとかで、100人ほどの人が休けい所に集まってきたが、暗闇にわからにかき彞り、どしゃぶりとカミナリのオンパレード。逆雷針のあるこの休けい所のすぐ近くに落ちた時はさすがにビビりました。だんだんと雨も上がり、自慢大会が始まり、ジャワ日食・木星食・彗星などのすばらしいスライドを見ることができました。他に流星・火星などの研究発表や31歳のドブソニアンなど多數の発表がありました。この夜も星を見て、そろそろ寝ようかといつ時になつて、昨夜のこともあるので休けい所で寝ていると、ここでも歎の大襲撃。この夜も眠れなかった。

8月7日 この日は賞品の分配があって、熊大天文研究会は「焼ソバ」を獲得しました。そのあと記念撮影があって解散。来年は広島で開かれるそうです。（ちょっと迷いようです。）

注！

PIYO PIYO : 熊大1年、観天科に所属しております。赤のジェンマを所有しています。

## 「木星会議」参加記

下郷慎太郎

御存知の方もいらっしゃるかも知れませんが、去る7月30日と31日に神戸で木星会議が行われました。私は7月11日より28日まで某コンピュータ会社で工場実習をしていたため、ちょうどその帰りに木星会議に参加する事が出来ましたのでその報告をしたいと思います。

第1日目は神戸大学の学生会館で行われました。御存知の方も多いでしょうが木星に関する用語には専門的な言葉が沢山あります。この日も、これらの用語が漫闇統のように発射されて私の上を飛びかいました。話の主な内容は、3月頃発生した擾乱について、永続白班FAの同定、昨年"洋球に発生したダークストリークについて、OMITの結果等でした。この日おもしろい事が一つありました。私が座って会議を開いていると、私の左に中年の人があとから来て座りました。左に向いてその人の顔を見てびっくり、天ガ等でおなじみの森本栄氏でした。しばらくすると、今度は私の右側に誰か座りました。その人の顔を見て再びびっくりしました。OAA木星隊の平林勇氏です。その後私はずっと恐縮したままでした。会議が終った後、大学の食堂で食事をしてボエジャーの8ミリ映画を見ました。この迫力はすごかったです。なお、その夜は例のごとくビールが持っていました。2日目はいくつかの研究発表があり、記念写真を撮って解散となりました。

木星会議についてはまだいろいろとあったのですが、今回はスペースがないので、また別の機会にお話ししたいと思います。なお、来年の木星会議は仙台で行われる予定です。

## 彗星夏の学校 in KYOTO

熊大天研, KOS 堀田 守男

県民天文台の一大祭典である彗星祭、人間が多いだけで内容がないのではあかんので、京都で8月26・27日と1泊2日の「彗星夏の学校」へ行ってきました。以下は、その内容です。

26日、飛行機に乗って大阪へ、そこから京都に行ったのでした。熊本は、雨が降っていたのですが、京都はしっかり晴れていました。京都へ着いてから会場である京都市立教育文化センターへ行くのですが、場所がわからず平安神宮や聖護院、頼野神社を見ているうちにやっとたどりついたので1時間ほど遅刻してしまった。参加者は、29名で北は青森から、そして南は、当然熊本です。ほとんどが、東京(関東)であちこちから東京弁が聞えました。さて、その時やったことは、英語の文献(彗星の本体に関する記事)を翻訳し、夜は勉強会といってIHW(ハレー彗星の観測組織)やコンピューター特にデータベースの変換についてやり、やっと酒にありついたのでした。そこで東京の大天連(大学天文連合)やYMOの市川・林氏らと酒を飲みまくった。次の日、西岡氏の彗星ダストテイルの力学について講義があり、興味をもらいました。以上が、彗星夏の学校でした。全国の天文爱好者?と酒を飲むのもいいものですよ、みなさんもどうぞ!

## エッセイ： つれづれなるままに

堀田 守男

今晚は、皆さん、堀田です。今夜は思うにまかせてとりとめもない記事を。

何、あれはな、空に吊した銀紙ちゃ  
かり、ボール紙を剪って、それに銀紙を張る。  
それを綱か何かで、空に吊し上げる。  
するとそれが夜になって、空の美であるように光るのぢゃ。  
分ったか、さもなければ空にあんなものはないのぢゃ。

中原中也の「星とピエロ」の一節です。中也はぼくが好きなんだ一人の詩人で、何か星に関する詩はないかと探したんですがこれぐらいしかなくて。でも本当に星ってのは太陽みたいに燃える火の球なんだろうか。確かに学問的・常識的には理解できるけれど、直感的にはどうも。それを自分で確かめることができたらどんなにいいだろう。宇宙船にのって何年もかかるって、「ま、やっぱり太陽と一緒にだ」なんて、でも出来ないことじゃないぞ、あと何十年もすれば恒星間航行だってきっと。その時はやっぱりシルバーシートに座るんだろうか。皆さん、おやすみなさい。

## 自己紹介

前 坂 巍

皆さん、こんばんは。私は熊本大学理学部地学科3年の学生です。私の天文運はと言いますと、小学校の5、6年の頃、地上用の50×の望遠鏡で月を見たことで、手持ちで不安定にもかかわらず月の美しさに感動したものでした。高校時代には1人で空を見たり、固定で写真を撮ったりしていました。大学入学後、天文関係のサークルに加入しようと思い、立ち寄ったところが熊大天文研究会で、この会へ加入したことが直接熊本天文研究会への加入につながりました。お恥しいことですが、私は熊本に住んでいながら熊本天文研究会のことを全く知りませんでした。天文台が一般公開を始めたときから運営委員をさせていただき、31cmによる追力や美しさを何度も味わせていただきました。

私は地学科の学生であるため、最近、進級論文なるもの（3年から4年に進級するためのもの）にとりかかり、夏休みを山口での調査に費やし、これからもしだいに忙しくなっていきそうです。そのため天文台の当番日にも足を運ぶことができなくなり、回りの方々にも御迷惑をおかけしてしまいそうで申しわけありません。

## ○ 告 知 板

先月号でも宣伝されていた高橋製反射望遠鏡MT-130が、9月16日に天文台に着きました。多いに活躍が期待できそうです。

31cmの主鏡の掃除が9月12日に行われました。その際、フーコテストとロンキーテストも行われました。その結果、鏡はきれいなバラボラであることが判明しました。なお、31cmの補修は来年に持ちこしとのことです。

天文台のトイレに電灯がつきました。今まで夜は難儀をしていた人もこれで一安心。特に一般の来台者の方にとっては喜ばれるでしょう。

☆☆ 天文台日誌より ☆☆

今回は、9月4日から30日までの天文台日誌からピックアップしてみました。

9/ 4 長崎から富田氏一家4名、個人での観測所(處と同形の)を今度作られるとのことで、見学に見えられた。

(M A T)

9/12 31cm反射鏡の鏡を掃除しました。いやはや、すごいよこれで、これで12等とかの彗星の観測をしていたのですねー。きれいになった31cmで、どんなに見え殊が変わったでしょうか? なみついでに、フーコテストとロンキーテストをしました。バラボラですので安心、折角来たのに、準備終えたら轟って彗星が見えないよー。 (畠田)

9/18 草刈り / 草刈機が1台のため、カマ3つと手作業で草刈りを行った。翌日、体じゅうが痛くなった。今年の草刈りには、にぎりめし等の屋食がなかったため、非常につらかった。

(下郡)

9/22 観月会 スライドによる月・惑星の説明の後、ドンチャン騒ぎ。寝たのはAM 4:30頃。お疲れでした。

(小林M)

9/27 台風10号が明日来るようなので、スライディングループなどの固定をする。大したことないといいけれど。。。そして、台風一過の青空になるといいな。(小林J)

9/29 夕方まで快晴、天文台についたら轟天

(山本)

実はこの日、編集委員の私(ST)を悲惨な運命が待ちうけていたのでした。私はこの日、天文台日誌を取りに行くため、バスで天文台へと向かったのでした。しかし、着いたのは一足遅く、轟天のため当番が帰ったあと、鍵を持ってきていた私は、途方にくれたのでした。最終バスは、もうとうに出ていたので、仕方なくM氏のライとブレーキのこわれた自転車で熊本に帰ったのでした。しかし、M氏の自転車がなかったらと思うと。。。考えるだけで恐ろしい!

☆☆ 編集後記 ☆☆

☆ST☆

星屑の111号をお届けします。今回の編集は、ちょうど、大学の試験期間と重なり大変でした。おまけに、前述のような事件もあり、とにかくここまでこぎつけて少しホッとしています。今回の記事は、夏休み特集号として、今年の夏に行なわれた様々なイベント、会議に参加した体験談を掲載してみました。そのため、8月に天文台で行なわれたペルセウス座の記事は、次号にまわさせていただきます。御了承下さい。

さて、いよいよ10月です。朝晩、めっきり冷えこむようになりましたが、これから冬にかけて、空が澄んで星がよく見える季節です。“かぜ”などひかぬように、十分気をつけながら観測しましょう。私の所属する九大天研も12月に写真展を行ないます。これから、ちょくちょく天文台にやって来て写真をとることになると思います。その時はヨロシクお願ひします。

LYRA.

